

2nd March 2009 Live Performance at Tamana City Hall

miba Madness

Text by Eisaku Oshima



「彼らのソウルに私の魂が呼応する」。こんな表現がびつたりの渾身のパフォーマンスを見た気がした。

去る3月2日、マリimba奏者・ミカ(吉田ミカ)がドラムのステイプ、ベースのエディ、ピアノのピーターとミカの地元である熊本の地で共演を果たし、国境を越えたジャズコラボが実現した。今回のステージでの見所といえ、ジャズというフリーな表現スタイルの音楽の中で、マリimbaにベース・ドラム・ピアノというユニークな組み合わせが、どんな音楽を繰り広げるのかというところにある。片方が奏でる音にもう片方がどう応えるか。オーディエンスはそれを期待している。

合わせ、手拍子を送る。

ジャズにマリimbaが絡むというのは、まれなケースである。それでも、それぞれが楽器の持ち味を出して見事にジャズという音楽スタイルを確立したステージは、見事の一言に尽きる。そもそも、ミカのマリimbaに対する情熱のルーツとはどこにあるのか。そのことについてステージ直前に語ってくれた。「3歳でピアノを始め、その後ドラムを弾いていた。マリimbaという楽器はアフリカで生まれ、ピアノとドラムが融合した打楽器的な要素を持っている。いわば自然の中で生まれた民族的な楽器。そこに惚れたんですよね」。熊本・天草の地で育ったミカの大らかさが、マリimbaへの情熱を引き立てたのだろう。今回のステージにも打楽器的な演奏の手法が随所に取り入れられ、軽快なテンポが、ステージをより熱くした。ただ、今回のステージでの

featuring Steve Gadd Eddie Gomez Pj Stoltzman

Mika Mari

彼らのソウルに
私の魂が呼応する。

それは、国境を越えたコラボレーション。

Mika Marimba Madness featuring Steve Gadd Eddie Gomez PJ Stoltzman



よしだ みか(マリンバ)

マリンバ奏者。2000年トロント大学上級演奏家コース首席修了後、天草を拠点にしながら、これまで世界9カ国アメリカ10州で公演。スティーブ・ガッドをはじめ世界中のさまざまなジャンルの著名なアーティストと共演し、独自のスタイルを模索中。現在はニューヨークを拠点に音楽活動続ける。



最大の見せ場は、打楽器であるマリンバを音楽的に奏でることができるとか、そこに係ってくる。そういう面で音の切れ目を出来るだけ出さず、他の楽器に融合させるテクニックが求められる。しかし、彼らのソウルにミカの魂はしっかりと応えていた。「エディやスティーブ、まさに大巨匠と呼ぶにふさわしい方と共演できる喜びをかみ締めな

から演奏したい。マリンバの特徴を生かして、出来るだけ自然体で音楽を楽しむことができれば」。ステージへの情熱を全面に出したミカから生み出される音楽は、ジャズファンの心を捕らえた。まさに圧巻だった。

【ミカの音楽とは】

— 共演者は、ミカの音楽をどう捉えているのか。

エディ「ミカの音楽はバリ

エーションが豊富。ハートとビジョンが、エキサイティングだ」。

スティーブ「彼女の音楽は非常に力強く、常に新しいものを体得しようとしている進歩的なスタイルが好き。チャレンジという言葉がびつたり」。

— 今日のステージに懸ける思いは。

スティーブ&エディ「ミカ

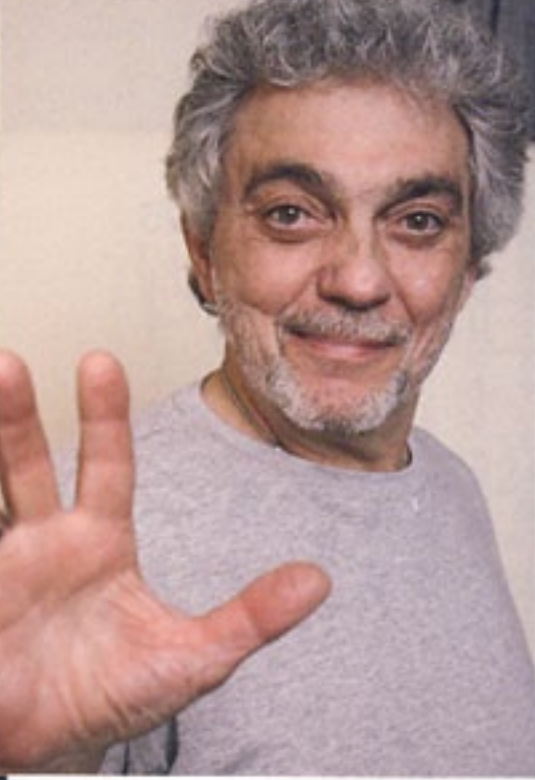
ピーター・ジョン・ストルツマン(ピアノ)

1999年、パークリー音楽院を卒業。その後、ニューヨークでヨスヴァニー・テリーをはじめ多くの著名な演奏者と共演、またレコーディングを行っている。2004年にはニューイングランド音楽院ジャズ作曲科で修士課程を取得。世界有数のクラリネット奏者であるリチャード・ストルツマンを父親に持ち、彼と共にロンドンやデンマーク、イタリア、日本など世界中で活躍している。



エディ・ゴメス(ベース)

プエルトリコ生まれ、幼い頃家族と一緒にニューヨークに移住、11歳の時にダブルベースへの道を開くことになる。ジャズ界の巨匠であるビル・エバンス、マイルス・デイビスらとの共演がある。現在はプエルトリコ音楽院、オーバーリン音楽院などの客員教授として後進の育成に努めながらジャンルを超えた音楽でなお、世界各地で演奏活動しているベースの巨匠の一人。



スティーブ・ガッド(ドラム)

1970年代にジャズとロック・ポップスの要素を融合させ誕生した「フュージョン」という音楽スタイルの発展を支えた最重要人物と呼ぶにふさわしいプレイヤー。1945年ニューヨーク州ロチェスターで生まれ、ドラマーであった叔父の影響で幼い頃からドラムに親しみ、音楽大学で打楽器を専攻。20代半ばからプロのセッション・ドラマーとして活動を開始。現在までチック・コリアをはじめ共演したミュージシャンは数知れず。リズムカルな躍動感と滑らかな流れを合わせたプレイは、多くのドラマーに影響を与えている。

と一緒に奏でる音楽が、自分たちにとって意味あるものにした。このメンバーでこれからは、限られた時間の中で全力を尽くしたい。

ピーター「マリimbaとピアノトリオの編成は、ユニークで経験したことがない。自分はその細心の注意を払ってアレンジをしているので、十分に楽しんでもらえるので

は。午後9時半、興奮冷めやらぬまま、ステージは終了。国境を越えたジャズコラボは幕を閉じる。彼らは新たな発見と次なるステージを目指して、オーデイエンスに手を振りながら会場を後にした。

【音楽への情熱=Passion】

ミカは音楽を通じた地元への思いをこう表現する。「地元への思いが常にあるからこ

に違いない。楽への情熱=Passion だった

た。そしてそれは、世界のどこにいても永遠に生き続ける音楽への情熱=Passion だった

今回の国境を越えたステージは、ミカにとって次のステップへのチャレンジだった。そしてそれは、世界のどこにいても永遠に生き続ける音楽への情熱=Passion だった

に違いない。楽への情熱=Passion だった